

第1・2学年 総合的な学習 学習指導案

日時	平成27年10月8日(木) 5校時
学級	第1学年 (男子27名 女子29名 計56名) 第2学年 (男子39名 女子24名 計63名)
指導者	教諭 稲垣 寛孝 (2年A組担任) 教諭 遠藤 秀樹 (2年B組担任) 教諭 松場 道子 (第1学年主任) 教諭 柴田 剛 (1年A組担任) 教諭 横岡 美敬 (1年B組担任) 教諭 千田 一栄 (第2学年主任)

1 単元名 「ともに考える」～復興へ向けてどう関わっていくか～

2 単元設定の理由

(1) 学習活動について

これまで本校は総合的な学習において、東日本大震災の経験から学び、後世に語り継ぐ力をもった生徒の育成をめざし、「復興教育」を柱の一つとして取り組んできた。1年生、2年生が今まで学習してきた内容は以下のようなものである。

<第1学年>

- ・「震災から学ぶ(1)」・・・(9時間) 「震災について知る」をテーマに、
 - 震災についてのビデオ学習
 - 講話「震災時の花巻温泉」
 - 学習旅行「遠野市の後方支援活動について」

<第2学年>

- ・「震災から学ぶ(2)」・・・(12時間) 「復興の現状を知り、考える」をテーマに、宿泊研修において
 - 「陸前高田での語り部ガイドによる説明」
 - 「三陸鉄道 震災学習列車」
 - 「釜石 箱崎漁港でのNPOと漁協との漁業体験」を行い、まとめを行った。

2年生はさらに、被災地の現状を視察し、それを語り継ぐ人、地域づくりに取り組む方々と交流する中で、復興にかける思いを受け止め、1年生に対して宿泊研修で知ったこと、学んだことなどを報告会で発表した。

1年生は学習旅行において、遠野市が被災地後方支援の拠点として果たした役割や当時の状況などを学び、学習を深めてきた。

2年生が学んだ復興へ向けた被災地からの視点と1年生が学んだ支援する側の視点からお互いに情報交流を行う。話し合い活動を通してお互いに学んだことを土台にして「ともに考える」ことで、自分たちが被災地の復興のために何ができるのか考え、被災地の人々とつながっていこうとする意識を高めていきたい。この考え方を1年生は来年度の宿泊研修での「被災地の人々とのかかわり」へ、2年生は来年度の「未来をひらく(3)」修学旅行ふれあい研修へとつなげていきたい。

(2) 生徒の実態

全体的に明るく素直で、何事にもまじめに取り組もうとする生徒が多い。自分自身の行動については、きちんと取り組まなければならないとある程度は時間を意識して行動したり、提出したりすることができる。残念ながら、相手に対する働きかけの行動や自分の考えを相手に伝えようとする意識などには消極的な傾向が見られる。

1年生、2年生ともに「学習旅行」、「宿泊研修」の報告会で発表する活動において、相手に何をどのように伝えるかを意識させていきたい。また、共感できる点や疑問点などをまとめるなどして報告会に関わらせていきたい。また、グループ交流会では、ワークショップ形式での話し合い活動を取り入れることで、お互いの考えを受け入れる相互評価や話し合い活動の進め方などを学習し、発表経験を積んでいくことで「伝える力」をさらに身につけさせていきたい。

(3) 研究とのかかわり

本校の研究主題は

生徒の表現力を高める「復興教育」の実践
～東日本大震災の体験から学び、後世に語り継ぐ力をもった生徒の育成～

である。

1年生の段階から取り組む「震災を題材とした学習活動」を通して、震災時の状況や被災地の復興の過程を学習し理解を深めていくことになる。被災された方々が特別なのではなく、自分たちと変わらない普通の生活を営んでいるという点から、遠い地域の出来事、他人ごとではなく、自分たちにも起こりうるものであるととらえることができると思われる。

また、震災以降、記憶を風化させない活動をされている方々や地域の復興、町づくりのために懸命になって働く方々との交流などにより、「震災を語り継ぐ活動」に取り組むことの大切さが理解しやすく、学年報告会などにおける表現活動に取り組む意欲づけになっている。さらに、様々な方々との交流や学習は「人とのかかわる」ことの大切さを気づくことにもなり、総合的な学習でのキャリア学習「共に生きる」への橋渡しの取り組みになっている。

1年生、2年生ともに震災当時は小学校2年生、3年生であり、「震災から学ぶ(1)」の学習においても当時の記憶が曖昧な生徒が少なからず見られた。今後はさらに震災当時を知らない世代の子どもたちが入学してくることを考えると、学校として、生徒自信の手による震災や防災について伝える活動を継続する意義があると考えられる。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ① グループ交流会でお互いの考えを出し合い、交流し、まとめる活動を通して、自らの思いや考えを伝えるための表現への意欲や能力を高める。
- ② 被災地の人々の願いや思い、後方支援にあたった人々の活動について学びを深め、被災地の復興のために何ができるかを考えさせる。

(2) 単元で育てようとする資質・能力

<第1学年>

- | | |
|--------------|--|
| ① 問題解決能力 | (ア) 自分の課題を設定して、それを解決する力 |
| ② 学び方やものの考え方 | (イ) さまざまな調査方法を知り、適切な方法で調査する力 |
| ③ 主体的創造的態度 | (ウ) 震災について関心を持ち、積極的に学習に取り組む態度 |
| ④ 自己の生き方 | (エ) 被災者の方の痛みを自分のこととしてとらえる力
(オ) 今の私たちにできることは何かを考え、人に伝える力 |

評価の観点	問題解決能力	学び方やものの考え方	主体的創造的態度	自己の生き方
単元の評価規準	自分の課題を設定し、異なる意見や他者の考えを受け入れて解決している。(ア)	さまざまな調査方法を知り、適切な方法で調査している。(イ)	震災について関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。(ウ)	被災者の方の痛みを自分のこととしてとらえることができる。(エ) 今の私たちにできることは何かを考え、他者に伝えている。(オ)

<第2学年>

- ① 問題解決能力 (ア) 宿泊研修など今までの学習や経験をもとに、表現する内容を適切に設定する力
- ② 学び方やものの考え方 (イ) 相手の立場に立って分かりやすい表現方法を選択する力
- ③ 主体的創造的態度 (ウ) 表現活動を積極的に行い、他者の良いところも評価する態度
- ④ 自己の生き方 (エ) 今の私たちにできることは何かを考え、人に伝える力

評価の観点	問題解決能力	学び方やものの考え方	主体的創造的態度	自己の生き方
単元の評価規準	宿泊研修など今までの学習や経験をもとに、表現する内容を適切に設定している。(ア)	相手の立場に立って分かりやすい表現方法を選択している (イ)	表現活動を積極的に行い、他者の良いところも評価している。(ウ)	今の自分にできることは何かを考え、人に伝えている。(エ)

(3) 指導計画および評価計画

<第1学年>

<第2学年>

No.	活動内容	時数	形態	評価	No.	活動内容	時数	形態	評価
1	震災のビデオ学習	1	一斉 個	(エ) (ウ)	1	【宿泊研修】 被災地視察と漁業体験	1 2	一斉 個	(エ) (ア)
2	【講話】 震災当時の花巻温泉について	2	一斉 個	(ウ) (ア)	2	研修のまとめ 記事づくり	8	学級 班	(ア) (イ)
3	【学習旅行】 遠野市の後方支援活動について	6	一斉 個	(エ) (ア)					
4	学習のまとめ	2	学級 班	(ア) (イ)					
5	宿泊研修報告会への参加	1	学年 個	(ウ) (エ)	3	宿泊研修報告会	1	学年 個	(イ) (ウ)
6	後方支援活動についての報告資料の準備	1	学年 個	(ア) (イ)	4	交流会の準備	1	学年 個	(ア) (イ)
7	グループ交流会(本時)	1	一斉 個	(ウ) (オ)	5	グループ交流会(本時)	1	一斉 個	(ウ) (エ)
8	振り返り	1	学級 個	(エ) (オ)	6	振り返り	1	学級 個	(エ)

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ① 表現活動を積極的に行うことができる。
- ② グループでの話し合い活動で、他者の意見を聞いて良いところを評価することができる。
- ③ 被災地の復興のためにできることは何かを考え、他者に伝えることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 課題設定の確認 ・ 宿泊研修の写真を提示しながら、前時の報告会を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体隊形で始める。 ・ 進行はコーディネーターが行う。 ・ 資料映像を通して、宿泊研修報告会でのポイントを全体で再確認させる。
展開 35分	・ 私たちは、被災地復興のために何ができるだろうか？	
	2 グループでの交流会 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年を12グループに分ける。 ・ 1年生は、グループ内で学習旅行にて学習してきた遠野市の後方支援活動についての発表を行う。 ・ 課題について個人の考えをまとめる。 ・ 個人の考えを発表し合い、ワークショップ形式で課題についての考えをまとめ、配布した用紙に記入する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いは各グループの進行役が進める。 ・ 1年生からの学習旅行の発表は、後方支援の活動にポイントを置き、支援側の視点での活動について発表させる。 ・ 個人の考えをまとめる時間を確保する。 ・ 個人の考えを付箋にまとめ、準備した用紙に提示する形で発表させる。 ・ 提示した考えをグルーピングするなど、課題に対する考えを話し合わせる。 ・ 時間配分に留意しながら話し合い活動を進めさせる。 ・ 教師は各グループを巡視し、話し合いのサポートを行う。
	3 全体での交流 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに、課題についてまとめた考えを発表する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隊形はグループ隊形のままで行う。 ・ グループでまとめた紙を見せながら発表させ、発表後はステージに貼って残しておく。 ・ オープンエンドとして、意見の集約は行わない。
終末 5分	4 学習のまとめ ・ 学習したことについて、自己評価と感想をプリントにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で交流させる形式で、感想を発表し合う。

(3) 本時の評価

- ① 表現活動に積極的に参加することができたか。
- ② グループでの話し合い活動で、他の意見を聞いて良いところを評価することができたか。
- ③ 被災地の復興のためにできることは何かを考え、人に伝えることができたか。